

## 催し物のご案内

### 30周年記念特別展

# 「生命の星・地球博物館の30年 — 120万点から厳選した資料で振り返る —

2024年7月13日(土)～11月4日(月・振休) 9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日: 7月16日(火)・9月2日(月)・9日(月)・10日(火)・17日(火)・24日(火)・30日(月)  
10月7日(月)・8日(火)・15日(火)・21日(月)・28日(月)

平成7(1995)年3月に開館した生命の星・地球博物館は、今年度開館30周年を迎えます。県立博物館から引き継いだ約20万点の資料でスタートした当館は「集める」「調べる」「伝える」の活動を地道に重ね、30年間で資料は約6倍の約120万点に達しました。30周年という区切りの年に、これまで集めてきた資料、学術活動の根拠となった資料、特別展や講座などで使用した資料を用いて、当館の活動を振り返ります。また、学芸員やご来館のみなさまが考える当館の未来像を展示し、館長からのメッセージをお届けします。



### 《 事前申し込みの講座 》

詳細は、博物館ウェブサイトや催物案内をご覧ください。

- これ何の骨?ハ虫類の骨格を調べてみよう[博物館]  
日時/7月13日(土) 10:00～15:00  
対象/小学4年生～成人 10人  
申込締切:7月2日(火)
- きのこさがし[博物館および館近くの山林内]  
日時/7月21日(日) 10:00～15:00※雨天中止  
対象/小学生～中学生 30人  
※小学1年～3年生は保護者参加必須  
申込締切:7月9日(火)
- 鳥類の翼標本作製講座～鳥類標本作りに挑戦! 剥製を作り残すための様々な工夫を学ぼう～[博物館]  
日時/7月27日(土)・28日(日) 9:30～16:00  
※2日間の参加が条件です。  
対象/中学2年生～高校生 12人  
※参加者1名につき、保護者1名見学可。  
申込締切:7月16日(火)
- クジラの「ヒゲ」を知ろう(1)・(2)[博物館]  
日時/8月4日(日) (1)10:00～11:30  
(2)13:30～15:30  
対象/(1)小学1年～3年生とその保護者  
(2)小学4年～6年生とその保護者  
各5組20人  
※(1)・(2)ともに保護者参加必須  
申込締切:7月23日(火)
- あなたのパソコンで地形を見る(教員向け)[博物館]  
日時/8月6日(火) 10:00～15:00  
対象/教員 12人  
申込締切:7月9日(火)
- 古生物学入門～哺乳類の四肢骨～[博物館]  
日時/8月24日(土) 10:00～15:00  
対象/成人 12人  
申込締切:8月13日(火)
- 秋の里山の植物[横浜市]  
日時/9月28日(土) 10:00～15:00※雨天中止  
対象/小学生～成人 25人  
※小学生は保護者参加必須  
申込締切:9月17日(火)
- ゾウの化石～頭骨を見てみよう～[博物館]  
日時/9月29日(日)・10月27日(日)・11月24日(日)  
10:00～14:00  
※3日間の参加が条件です。  
対象/高校生～成人 15人  
申込締切:9月17日(火)
- 川と水路の生き物を調べよう[県西部]  
日時/10月6日(日) 10:00～14:00※雨天中止  
対象/小学生～成人 20人  
※小学生は保護者参加必須  
申込締切:9月24日(火)
- きのこの観察と同定[博物館および館近くの山林内]  
日時/10月6日(日) 10:00～15:30※雨天中止  
対象/小学4年生～成人 25人  
申込締切:9月24日(火)

催し物の詳細や最新の情報は、当館ウェブサイト、および公式X(旧Twitter)でご確認ください。

生命の星



[公式ウェブサイト] <https://nh.kanagawa-museum.jp/>  
[公式 X] @seimeinohoshiPR [混雑情報 X] @seimeinohoshiCI  
[問合せ先] 企画情報部 企画普及課 TEL: 0465-21-1515

## ライブラリー通信「夜話」って何?

つちや さだお  
土屋 定夫(司書)

2023年12月に晶文社から『遺伝子が語る免疫学夜話』という本が出版されました。免疫は私たちの体を守る大事な機能であると共に、花粉症やアトピー性皮膚炎などの疾患で逆に苦しめられてしまうのも免疫が引き起こしていることです。その免疫の進化について書かれたものですが、今回は書名にある「夜話」に注目してみましょう。

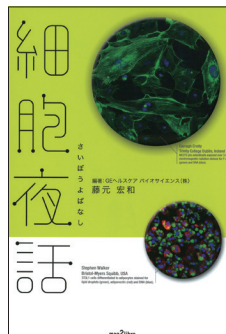
夜話の意味をご存知でしょうか? 何となくわかるという方も多いと思いますが、国語辞典によると「夜間にする談話。気軽に聞ける話。また、そのような内容の本。」となっています。昼間の労働で疲れた体と頭には、難しい話よりは易しい方が良いでしょう。さらに「夜話」には本という意味も込められていたのです。つまり、「この本は難しいものではなく、やさしく書かれたものですよ。」と書名から教えているわけです。

国立国会図書館の蔵書検索で、明治から令和までの各時代で夜話のつく図書の数を調べてみると、明治時代は約25冊、大正時代は約60冊、以下昭和は750冊、平成は580冊、令和は既に70冊を超えています。「夜話」って、もうほとんど使われないのかと思っていましたが、そんなことはなかったようですね。

当館でも数冊所蔵しています。ちなみに『細胞夜話』は「よばなし」と読みます。



葵通信社 1978年



パレード 2008年

自然科学のとびら  
第30巻2号(通巻115号)  
2024年6月25日発行  
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館  
館長 田中 徳久  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499  
TEL: 0465-21-1515 FAX: 0465-23-8846  
編集 本杉 弥生(企画普及課)  
印刷 株式会社あしがら印刷

© 2024 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.